

# インターネットを活用した遠隔社会教育研修の在り方に関する調査研究

研究代表者 服部 英二（社会教育実践研究センター長）

## 1 調査研究の趣旨・背景

文部科学省の平成 20 年度社会教育調査報告書で明らかなように、国民の学習機会等はこちら数年増加傾向にある。

しかし、国民の多種多様な学習要求の高まりが見受けられる反面、社会教育関係者の研修の機会は減少しており、社会教育関係者の資質・能力を向上させるための研修の効果的な実施方法を明らかにすることが喫緊の課題となっている。

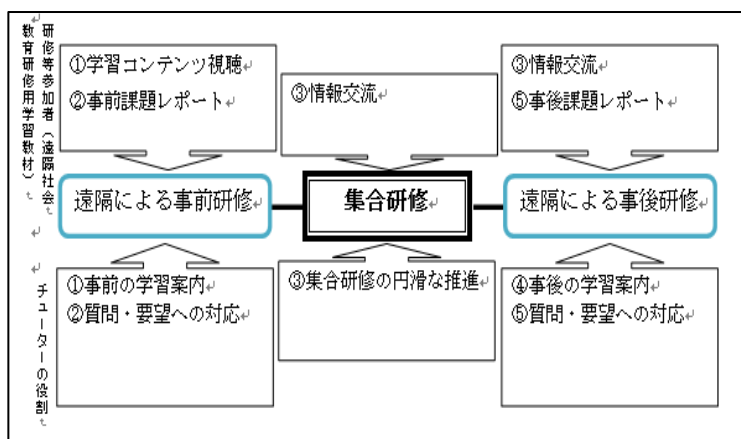
当センターでは、こうした状況を踏まえ、これまでインターネットを活用して社会教育指導者の資質・能力を向上させる遠隔での研修方法の開発を進めてきた。平成 20 年度は、図書館司書を対象とした研修で「チューターの役割」及び「学習コンテンツの活用」について調査研究を行った。その結果、インターネットを活用した遠隔社会教育研修を効果的に進めるためには、「学習支援者としてのチューターの在り方」及び「個人学習用教材の作成及び活用方策」が重要であることが明らかとなった。

そこで、本調査研究では、新たに制作した学習コンテンツを活用するとともに昨年の成果と課題を踏まえ、社会教育主事を対象とした研修を効果的に進める「チューターの役割の明確化」と「学習コンテンツ等個人用学習教材の在り方」を中心に、当センター及び北海道で実施する研修会を活用して、実証的な検証を行った。

## 2 調査研究の成果・概要

### (1) インターネットを活用した遠隔社会教育研修の位置付け

平成 20 年度の調査研究を基に、本調査研究における「遠隔社会教育研修」は、「インターネット等を活用した遠隔による事前・事後研修（個人学習）と、研修受講者が対面する集合研修の組合せによる形態（ブレンディッド・ラーニング）をとる研修」とした（図 1）。



〔図1〕 インターネットを活用した遠隔社会教育研修（一体化された形態）のイメージ

### (2) 遠隔社会教育研修を効果的に進めるチューターの役割

遠隔社会教育研修を効果的に進めるチューターの役割の仮説を①参加者の学習不安の軽減、②主体的参加への意欲付け、③集合学習の円滑な推進と設定し、当センター及び北海道で実施する研修会で検証した。その結果、研修受講者がチューターに求めている役割として、「学習内容の理解度が高まる指導・助言」（94%）「課題意識を生む指導・助言」（86%）であることが明らかになった（図 2）。また、自由記述から、「講師とのパイプ役を果たしてほしい」「チューターと受講者、受講者同士の人間関係の円滑化

を図ってほしい」等、学習内容だけでなく人間関係構築の支援も求めていることが分かった。

遠隔による事前・事後研修におけるチューターの励ましの有無によって、受講者の学習不安がいかに変化するかを整理した。結果として、励ましを受けた受講者の学習不安は、励ましを受けなかった受講者の学習不安と比べて有意に減少していることがわかる（図3）。この有意差は、「操作方法に関する不安」や「個人学習に対する遅延不安」においても見られ、学習不安の軽減に、チューターが大きく影響していることが分かった。

以上のようなことから、遠隔社会教育研修を効果的に進めるチューターの役割は、仮説に挙げている3点に限定することができないということが示された。特に研修受講者が望んでいる内容として「事前研修における学習の内容と集合研修における学習の内容をつなげること」、「チューターと受講者、受講者同士等、人と人をつなげること」が挙げられており、これらはチューターの果たすべき役割の方向性を示している。今後、事前研修、集合研修、事後研修、日常的業務というそれぞれの段階において、チューターのかかわり方を構造化し、研修の効果を高めるチューターの役割をより明確化していく必要があると考えている。

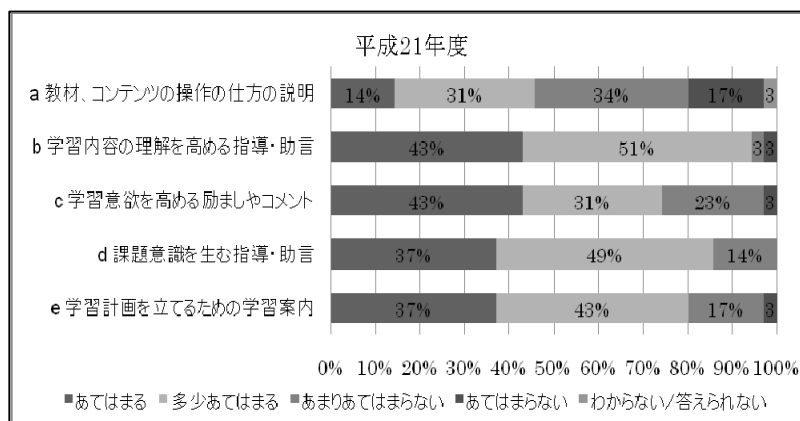
### (3) 効果的な個人学習用教材の開発

#### ① 遠隔社会教育研修用学習コンテンツの制作・活用

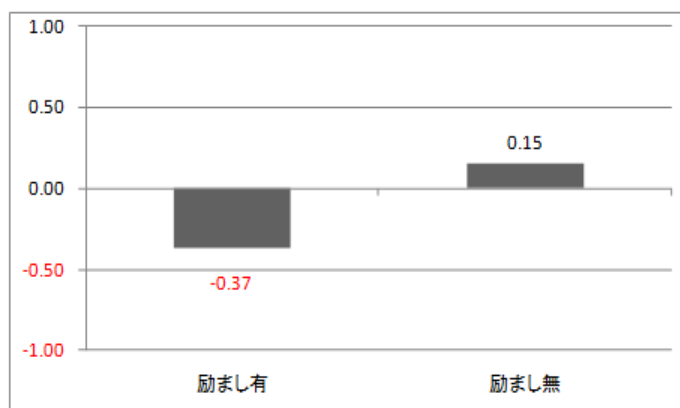
平成20年度企画・制作した遠隔社会教育研修用学習コンテンツを活用し、学習コンテンツの実用性について具体的に研修の場で検証を試みた。制作及び活用した学習コンテンツは次頁の通りである。

学習コンテンツの特徴としては、

- ア. 一つのコンテンツは20分程度であること
- イ. コンテンツ内をモジュール化し、視聴者が見たい個所から視聴することができること
- ウ. パワーポイント資料をダウンロードし、印刷ができることが挙げられる。



〔図2〕 インターネットを活用した研修におけるチューターの役割 (受講者事後アンケート結果)



〔図3〕 励ましの有無による学習不安の変化

研修受講者のアンケート結果から、画質、長さ、音質、教材の内容、操作性について「満足している（あてはまる、多少あてはまるという回答の合計）」という回答が80%を超えており、十分実用的であることが明らかとなった。

また、このことは自由記述の「好きな時間に何度も繰り返して教材を視聴できる」、「どこにいても専門的な研修を受講できる」、「研修にかかる費用を抑えられる」など、インターネットによる研修の利便性に関すること、「学習内容に対する理解度が高まった」、「課題意識を持って集合研修に望むことができた」など研修の効果に関すること、双方で良好な回答を得ていることから裏付けられる。

以上のように、遠隔による事前研修において学習コンテンツを視聴することは、

集合研修における学習の効果をより高めるために有効であることが明らかになった。

一方、否定的な回答として「視聴時間をなかなか確保できない」、「集合研修の内容とのつながりが明確ではない」などが挙げられた。今後、学習コンテンツの視聴方法の工夫や研修内容との位置付けをより明らかにしていくことが求められる。

## ② 学習シート等

遠隔による事前研修及び事後研修において、課題レポート等を実施した。事前研修では、研修テーマや視聴した学習コンテンツに関する内容等を課題レポートとした。事後研修においては、事前研修及び集合研修の理解を深めることができる内容、研修内容を日常業務に生かすことができる内容等を課題レポートとした。

また、北海道における研修会では、学習コンテンツ視聴後の疑問、質問、要望等を記入し、集合研修時の講義や演習で活用する「学習コンテンツ視聴カード」の取組を試みた。

特に「学習コンテンツ視聴カード」は、事前研修と集合研修との内容を深め、集合研修に臨む研修受講者の課題意識を高める上で有効であることが、事後アンケート等で明らかとなった。

## 3 中期目標との関連性

中期目標の重点課題で示されている「生涯学習情報提供の在り方」「社会の変化に対応した新しい社会教育事業の在り方」を踏まえ、インターネットを活用した遠隔社会教育研修の効果的な実施方法についての数多くの知見を得ることができた。

また、新しいメディアを活用した生涯学習情報コンテンツの在り方や研修方法の新たな方向性などを示すことができた。

### 遠隔社会教育研修用学習コンテンツ 「社会教育主事研修～社会教育法改正と今後の社会教育～」

#### Chapter1

生涯学習の振興と社会教育行政～社会教育をめぐる新しい動向を踏まえて～  
八洲学園大学長 山本 恒夫

#### Chapter2

社会教育主事に求められる役割  
東京家政大学教授 山本 和人

#### Chapter3

新しい時代における社会教育計画・評価の在り方  
八洲学園大学教授 浅井 経子

#### Chapter4

社会の諸課題と社会教育施策

##### Subject1

生涯学習の学習成果の活用  
札幌国際大学准教授 佐久間 章

##### Subject2

家庭の教育力の向上  
九州女子短期大学准教授 大島 まな

##### Subject3

学校・家庭・地域の連携  
千葉大学教授 明石 要一

#### 4 研究成果の普及・広報

本調査研究の報告書は、都道府県の教育委員会等に配布するとともに、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターのホームページに全文を掲載する予定である。

#### 5 今後の予定

本調査研究の期間は3年間の計画である。平成22年度は本調査研究の成果を都道府県等における社会教育関係職員を対象とした研修での実用化に向けて参考試案の作成を行う予定である。

#### 6 本研究の報告書等

「インターネットを活用した研究セミナー等に関する調査研究報告書」

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（平成20年3月、平成21年3月）

「インターネットを活用した遠隔社会教育研修の在り方に関する調査研究報告書」

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（平成22年3月）

<http://www.nier.go.jp/jissen/chosa/houkokusyo0-0.htm>